〔大鏡四右大臣師輔〕元方式部卿のむまごまうけの君にておはするころ、みかどの御庚申せさせ給ふに、この式部卿まいり給へる、さらなり、九條殿○藤原師輔さぶらはせ給ひて、人々あまたさぶらひてご○ご、一本作だ、うたせ給ふついでに、冷泉院のはらまれおはしましたるほどにて、さらぬだによひといかゞとおもひ申たるに、九條殿こよひのすぐろくつかうまつらんとおほせらるゝまゝに、このはらまれ給へるみこ、おとこにおはすべくば、でう六いでことて、うたせ給ひけるに、たゞ一どにいでくるものか、ありとある人、めを見かはして、かんじもてはやし給ひ、わが御みづからも、いみじとおぼしたりけるに、この式部卿のけしきいとあしうなりて、いろもいとあをくこそなりたりけれ、さてのちにれいにいでまして、その夜やがて、むねにくぎはうちてきとこそのたまひけれ、

〔蜻蛉日記上之下〕ことし○康保三年は、せちきこしめすべしとて、いみじうさわぐ、いかで見むとおもふに、ところぞなき、みむとおもはゞとあるをきゝはさめて、すぐろくうたんといへば、よかなり、ものみつぐのひにとて、女うちぬ、よろこびてまかるべきさまのことゞも云つ、

〔榮花物語一月の宴〕いまのうへ○村上の御心ばへ、あらまほしくあるべきかぎりおはしましけり、○中略そこらの女御みやす所まいりあつまり給へるを、○中略御物忌などにて、つれ〴〵におぼしめさるゝ日などは、おまへにめし出て、ごすぐろくうたせ、へんをつかせ、いしなどりをせさせて御覽じなどまでぞおはしましければ、みなかたみになさけをかはし、おかしうなんおはしあひける、

〔大鏡六内大臣道隆〕入道殿○藤原道長みたけにまいらせ給へりし道にて、帥殿○藤原伊周の方より便なきことあるべしときこえて、つねよりもよををそれさせ給ふに、たひらかにかへらせ給へば、彼殿もかゝる事聞えたりけりと人の申せば、いとかたはらいたくおぼされながら、さりとてあるべ